和 食 器 の 開 発

池本　　周＊

１．緒　　言

近年，笠間焼業界では，市内で採取した原土をベースとした笠間粘土が販売されている。これは鉄分の多い土であり，還元焼成ではきれいなチョコレート色に発色し，適度な砂気と相まって温かみのある土味を見せる。当所では昨年まで、この土に合う白化粧土と釉薬を開発してきた。そこで今回，これらを使用して和食器を試作してみた。

２．方　　法

実際の試作については，次の設定により行った。

粘　　土：笠間粘土（笠間焼協同組合）
白 化 粧 土：前年度に開発した白化粧土

白化粧土配合比

天草陶石	AAカオリン	蛙目粘土	ベントナイト(外割)
48	32	20	5

釉　　薬：前年度に開発した透明，ベージュ，黒
使　用　炉：ガス炉
炉内雰囲気：還元焼成
焼 成 温 度：ゼーゲルコーンSK9半倒
焼 成 時 間：19時間
成 形 方 法：ロクロ成形
使用者設定：若年，青年，壮年の３世代それぞれに向けて，３パターン試作する。
器　　種：フリーカップ，飯碗，小鉢，小皿，中鉢，中皿の６種（使用頻度の高さにより設定）厚目の作りと，笠間粘土の土味により，温かい雰囲気を出す。

2.1　若年層向け

若者の食生活においては１つの器が様々な場面で使用されることが多く，使い回しの可能なものが望まれる。そこで，形態はシンプルな朝顔形に統一し，加飾も押さえ，全体に白色を基調とし清潔感を出し対応できるようにした。又、高台周りに広めに素地を出し，全体の印象を引き締めた。

釉　薬：透明
加　飾：白化粧土総掛け（粉引き風）

透明釉配合比

福島長石	蛙目粘土	鼠石灰	珪石
43	19	22	17

2.2　青年層向け

器体の見込み部分と外側胴部分に白化粧土を刷毛塗りし，ベージュマット釉を施釉した。刷毛塗りした部分は明るく発色し，素地に直接施釉してある部分は濃い色調になるベージュマット釉の特徴を活かした。家庭で使用することを想定し，和みのある雰囲気を出した。

釉　薬：ベージュマット
加　飾：白化粧土刷毛塗り

ベージュマット釉配合比

福島長石	AAカオリン	鼠石灰	珪　石	酸化チタン(外割)
38	32	21	10	6

2.3　壮年層向け

素地を厚く成形することで熱の伝わりを少なくし，火傷等の事故が起こらないようにし，持ち易さと見た目の渋さを考慮した。胴部分に二巻き胴締めを施し，手になじみやすくし，装飾も兼ねた。

釉　薬：黒（光沢）
加　飾：成型時胴締め

黒釉配合比

天草陶石	蛙目粘土	鼠石灰	珪　石	ドロマイト	弁柄(外割)
52	3	2	33	10	6

３．結　　言

今回は３セットの和食器を試作してみたが，それぞれ使い易さとぬくもり，落ち着きのイメージを表すことが出来た。

若年層向け

青年層向け

壮年層向け

＊窯業指導所